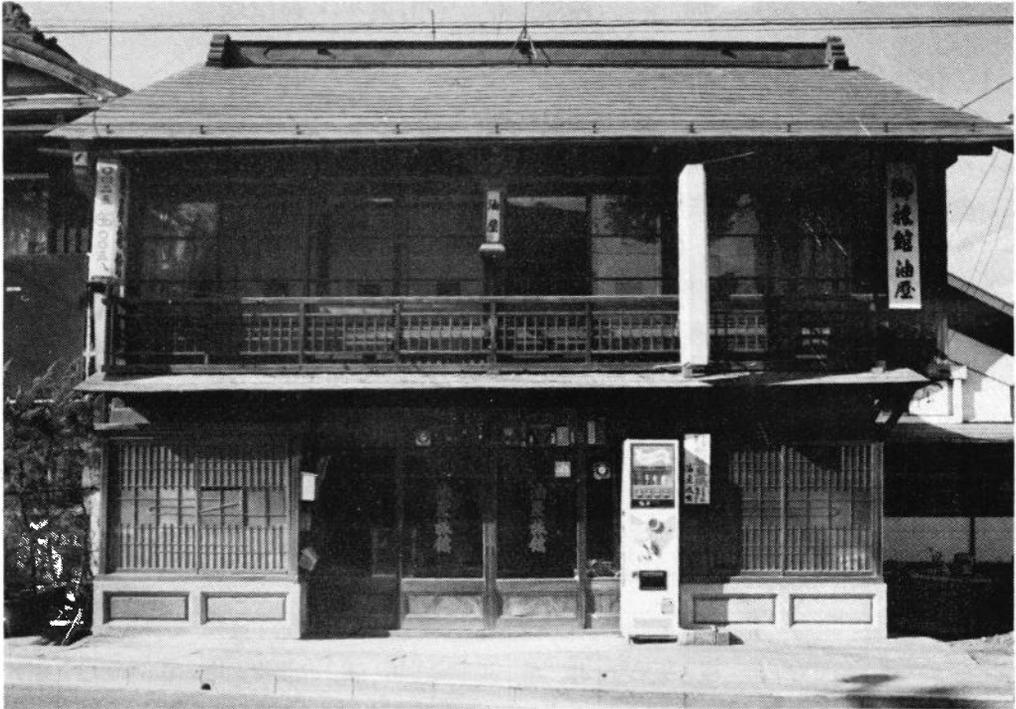


# 西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第255号 平成6年3月



『油屋旅館』(五日市町) 安富一夫

## 目次

	頁		頁
1. 学術		5. 文芸随筆その他諸事百般	
腹部救急手術の変遷		雑記『おもと会(明治会)と大正会』	
青梅総合外科 石井好明 他 …	2	山田正哉 …	14
2. 理事会報告	広報部 …	『傘』	川崎健一郎 …
	8		15
3. 会員通知・医師会の動き	事務局 …	6. 新人紹介	大久保憲二 …
	12		16
4. 各部だより		7. お知らせ ……………	16
3月・4月の学術講演会	学術部 …	8. 表紙のこぼれ	安富一夫 …
	13		17
		9. あとがき	玉木一弘 …
			17

## 学 術

## 腹部救急手術の変遷

— 過去30年間の傾向と最近3年間の比較 —

青梅市立総合病院 外科：石井好明・山田忠義・藤田豊樹  
佐野広美・比企直樹・中浜昌夫  
同 胸部外科：宇田東平・森田明夫

## I. はじめに

「救急は医の原点」と言われるが、第一線の医療に従事しているからには、救急に無関心では居られない。本会報22号(1974年)に「当院における13年間の腹部救急手術の経験から」と題して、虫垂炎(特に若年層)と嵌屯ヘルニアの手術が減ってきたこと、消化性潰瘍の穿孔は十二指腸に多く出血は胃に多いこと、癌が急性腹症の原因になる例が少なくないことなどを報告した。

248号(1993年)には「外科医生活30年のまとめ」の中で、虫垂炎・胃十二指腸潰瘍・胆石・ヘルニアの救急手術についても述べたが、腹部救急手術としては不十分であり、1990年代('90年9月から'93年8月までの3年間)になってから傾向が変わってきた点もあるので、過去30年間(1960、'70、'80年代)の傾向と比較して統報としたい。

## II. 開腹術数の変遷

(表1) 開腹術数の変遷

	(1) 開腹術総数				(2) 救急開腹術数				(3) 全例に対する	
	年平均	比率	虫垂炎除外		年平均	比率	虫垂炎除外		救急例の割合	虫垂炎除外
年平均			比率	年平均			比率			
1960年代	349例	1	140例	1	192例	1	26例	1	55%	19%
'70	322	0.9	231	1.7	117	0.6	34	1.3	36	15
'80	367	1.1	296	2.1	123	0.6	52	2.0	34	18
IX'90~VIII'93	435	1.2	372	2.7	119	0.6	66	2.5	27	18

(表2) 開腹術の背景

	(1) 消化器がん手術数		(2) 周辺人口		
	年平均	比率	比率	調査年	
1960年代	27例	1	8万9千	1	1965年
'70	48	1.8	12 7	1.4	1975
'80	85	3.1	16 3	1.8	1985
IX'90~VIII'93	132	4.9	19 3	2.2	1992

(注) 周辺人口は青梅市・羽村市・奥多摩町人口の合計

(表1) (1)の如く、過去30年間に開腹術総数の変動はほとんどなかった。'90年代に入り2割増えたが、(表2) (2)の如く周辺人口の増加率より少なく、相対的には減少傾向にあるのであろうか。

救急開腹術数は(表1) (2)の如く'70年代は'60年代の6割に減り、以後'90年代に入っても変りない。従って(表1) (3)の如く、開腹全例に対する救急例の割合は、'70年代以来'90年代に入っても低下傾向がつづいている。

これは(表3) (1)に明らかなように、虫垂炎手術の激減のためである。虫垂炎手術(慢性虫垂炎・移動盲腸症を含む)を除外すると、(表1) (1)の如く開腹術総数は'70年代以来周辺人口の増加傾向以上の増加傾向にあり、(表1) (2)の如く救急開腹術も総数と同様の増加傾向を示し、'90年代に入り人口増以上に増えている。

従って、虫垂炎を除外すれば(表1) (3)の如く、全例に対する救急例の割合は過去30年間ほとんど変わらず、'90年代に入っても変っていない。

なお、人口増を考えると開腹手術が減少傾向を示している中で、(表2) (1)の如く、消化器がんの手術数は過去30年間で人口増をしのぐ増加を示し、'90年代に入っても増加はつづいている。これには、当地域に老人病院・老人ホームが多く、老令人口の流入が多いことも或程度関連しているかも知れない。

### III. 急性虫垂炎手術の変遷

(表3) 急性虫垂炎手術の変遷

	(1) 総手術数		(2) 男/女	(3) カタル性虫垂炎の割合			(4) 穿孔性虫垂炎の割合		
	年平均	比率		男性	女性	計	男性	女性	計
1960年代	166例	1	0.8	52%	74%	64%	7%	4%	5%
'70	83	0.5	1.3	30	43	36	14	12	13
'80	71	0.4	1.3	11	25	17	31	25	28
IX'90~VIII'93	63	0.4	1.6	4	21	11	24	21	24

「軽症虫垂炎は手術しなくとも治る」と医学常識が変わり、全国統計では1962年をピークとして虫垂炎手術が減少している。当院では、'61年が最も多かったが、以後減少して(表3) (1)の如く'70年代は'60年代の5割、'80年代は4割となり、'90年代に入っても変らない。人口増を考えると、相対的には今も減りつづけているということになる。

(表3) (2)の如く'60年代は女性の方が多かったが、'70年代以後男性の方が多く、その傾向は'90年代に入り更に強まっている。手術診断をみると(表3) (3)の如く軽症(カタル性虫垂炎)は女性に多いので、軽症を手術しないということが、女性の手術の減少となって現われているのであろう。

穿孔性虫垂炎の診断は難しいことが少なからずあり、'90年の調査では、穿孔例の半数が初診時に虫垂炎であることすら診断されてなかった。幸い、軽症虫垂炎と診断して経過をみている中に穿孔させてしまったと思われる例は、それほど多くない。

'80年代から超音波診断も応用されているが、穿孔性虫垂炎の割合は(表3) (4)の如く、'70年代以来増加しつづけている。'90年代に入り増加傾向は停滞した。男女差は軽症ほどでなく、むしろ女性のほうが少ない。

## IV. 腸閉塞手術の変遷

(表4) 腸閉塞手術の変遷 (その1)

	(1) 癒着性腸閉塞			(2) 外鼠径ヘルニア			(3) 大腿ヘルニア		
	年平均	比率	開腹術に 対する割合	年平均	比率	嵌屯手術 の割合	年平均	比率	嵌屯手術 の割合
1960年代	4.3例	1	1.2%	53例	1	7%	3.8例	1	31%
'70	5.0	1.2	1.6	81	1.5	4	6.2	1.6	23
'80	9.5	2.2	2.6	88	1.7	4	4.3	1.1	37
IX'90~VIII'93	10.7	2.5	2.5	91	1.7	4	6.0	1.6	28

(表4) (1)の如く、癒着性腸閉塞(9割が手術後)の手術は'60年代以来増加している。増加傾向は、僅かながら人口増以上である。開腹術に対する割合も30年間増加してきたが、'90年代に入って停滞している。

(表4) (2)の如く、外鼠径ヘルニア手術は'60年代以来、人口増に平行した増加を示してきたが、'90年代に入り増加が停滞している。ヘルニア全手術に対する嵌屯のための緊急手術(嵌屯手術と略称した)は'60年代以来年間3~4例であり、総数に対する割合は'70年代に'60年代より低下し、以後'90年代に入っても変りない。

(表4) (3)の如く、大腿ヘルニアの手術数は、老令人口の増加にもかかわらず過去30年間4~6例で、'90年代に入っても増加していない。嵌屯手術の割合も一進一退で、'90年代に入っても'70年代と同じである。

内鼠径ヘルニア手術は'60年代にはなかったが、'70年代には年平均1.3例、'80年代に7.1例、'90年代に入り14.0例と急速に増加しているが、嵌屯手術は'90年1月に1例あったのみである。

(表5) 腸閉塞手術の変遷 (その2)

	(4) 悪性腫瘍による腸閉塞			(5) 大腸がん				
	年平均	比率	消化器がん に対する割合	年平均	比率	腸閉塞 手術	比率	腸閉塞手術 手術総数
1960年代	1.1例	1	4.1%	5.5例	1	0.6例	1	11%
'70	1.5	1.4	3.1	12.0	2.2	1.0	1.7	8
'80	4.1	3.7	4.8	23.9	4.3	2.8	4.7	12
IX'90~VIII'93	3.0	2.7	2.3	56.7	10.3	2.0	3.3	4

過去30年間、(表2) (1)に見る消化器がん手術の増加に平行して(表5) (4)の如く悪性腫瘍による腸閉塞の手術が増加してきたが、'90年代に入り、増加傾向が停滞した。従って、消化器がん総数に対する腸閉塞手術の割合は過去30年間大差なかったが、'90年代に入り低下した。

(表5) (5)の如く大腸がん手術の増加は過去30年間人口増以上であったが、'90年代に入り更に増加をつけ'60年代の10倍となり、(表8) (3)の如く、胃がんに並ぼうとしている。腸閉塞をおこして手術された例の増加は過去30年間、総数の増加にほぼ平行しており、総数に対する腸閉塞手術の割合はほぼ一定していた。'90年代に入り腸閉塞手術数の増加が停滞したので、総数に対する腸閉塞手術の割合は低下している。腸閉塞をおこす前に、がんが発見されることが多くなったためであろうか。

(表6) 腸閉塞手術の変遷 (その3)

	(6) 腸重積		(7) 先天異常		(8) 腸捻転	
	年平均	比率	年平均	比率	年平均	比率
1960年代	1.1例	1	0.9%	1	0.4例	1
'70	1.3	1.2	1.9	2.1	0.3	0.8
'80	1.5	1.4	2.3	2.6	0.6	1.5
IX'90~VIII'93	2.0	1.8	2.0	2.2	2.0	5.0

(表6) (6)の如く腸重積の(小児が8割)のため手術した例は'60年代以後増加傾向を示してはいるが、人口増よりは増加傾向が鈍い。

(表6) (7)の如く先天異常(4割が幽門狭窄・3割が腸廻転異常)のため腸閉塞をおこして手術された例は、ほぼ人口増相当の増加を示している。

(表6) (8)の如く腸捻転(8割がS状結腸捻転)で手術された例は'80年代から増加したが、'90年代に入ってから増加が著しい。老令人口の増加のためであろうか。

## V. 消化管穿孔のための緊急手術の変遷

(表7) 消化管穿孔のための緊急手術の変遷 (その1)

	(1) 十二指腸潰瘍					(2) 胃潰瘍				
	全手術数		穿孔例		穿孔例	全手術数		穿孔例		穿孔例
	年平均	比率	年平均	比率	全例	年平均	比率	年平均	比率	全例
1960年代	6.4例	1	2.1例	1	33%	11.0例	1	0例	—	0%
'70	11.7	1.8	2.8	1.3	24	11.5	1.0	0.7	1	6
'80	10.0	1.6	5.0	2.4	50	6.7	0.6	1.7	2.4	25
IX'90~VIII'93	4.0	0.6	3.3	1.6	83	4.0	0.4	1.3	1.9	33

'60年代から消化性潰瘍の手術は合併症例・難治例に限っていたが、(表7) (1)の如く十二指腸潰瘍手術は'70年代には人口増相当の増加を示した。姑息療法の進歩の影響か、'80年代には幾分減少し、'90年代に入ると、激減している。穿孔のための手術の割合は'60年代には手術総数の3分の1であり、'70年代に4分の1に減ったが、'80年代には2分の1となり、'90年代に入ると8割を占めるに至った。

(表7) (2)の如く、胃潰瘍手術の減少傾向は十二指腸潰瘍より早く現われ、更に著明であった。'60年代には穿孔のための手術はなかった。'70年代に出現し、'80年代に増加したが、'90年代に入り増加は停滞している。'80年代には手術総数の4分の1、'90年代には3分の1を占めているが、潰瘍穿孔と言えまらず十二指腸を考えるとという常識を変える程ではないようである。

最近、胃がんによる死亡が減ってきたと言われるが、(表8) (3)の如く手術数は人口増を上廻る増加をつけている。しかし、胃穿孔の原因ががんだったという例は過去30年間、10年に1~2例だったが、'90年代に入ると3年間に2例と急増している。

(表8) (4)の如く、小腸穿孔(5割が外傷性)のための緊急手術は'80年代から増え、'90年代に入っても増加傾向がつづいている。

(表8) 消化管穿孔のための緊急手術の変遷 (その2)

	(3) 胃がん					(4) 小腸穿孔		(5) 大腸穿孔	
	全手術数		穿孔例		穿孔例	手術数		手術数	
	年平均	比率	年平均	比率	全例	年平均	比率	年平均	比率
1960年代	17.8例	1	0.1例	1	0.6%	0.8例	1	0.3例	1
'70	30.4	1.7	0.1	1.0	0.3	0.9	1.1	1.6	5.3
'80	46.4	2.6	0.2	2.0	0.4	3.2	4.0	3.8	12.7
IX'90~VIII'93	60.3	3.4	0.7	7.0	1.1	4.3	5.4	5.3	17.7

(表8) (5)の如く、大腸穿孔(3割が憩室穿孔、がん・外傷・特異性がそれぞれ2割を占めた)のための緊急手術は'70年代から増え、'80年代には更に増加し、'90年代に入っても増えつづけている。

人口増を上廻る腸管穿孔の増加には、交通外傷を主とする外傷の増加の影響が考えられる。

## VI. 消化管出血のための緊急手術の変遷

(表9) 消化管出血のための緊急手術の変遷

	(1) 胃潰瘍			(2) 十二指腸潰瘍		
	出血緊急手術		出血例	出血緊急手術		出血例
	年平均	比率	全例	年平均	比率	全例
1960年代	0.7例	1	6%	0.1例	1	2%
'70	1.7	2.4	15	0.4	4.0	3
'80	2.1	3.0	33	0.4	4.0	4
IX'90~VIII'93	1.0	1.4	25	0	0	0

(表9) (1)の如く、胃潰瘍出血のための緊急手術は'70年代から増加し、'80年代に更に増加したが、'90年代に入り減少している。'80年代後半から盛んになった内視鏡止血術の効果が出てきたのであろうか。薬物療法の進歩、普及の結果でもあろう。

胃潰瘍手術総数が減ってきたので、出血のための緊急手術の割合は'70年代以来増加し、'80年代には3分の1に達したが、'90年代に入り4分の1に留まっている。

(表9) (2)の如く、十二指腸潰瘍出血のための緊急手術は'60年代から少なかったが、'90年代に入ってから1例もない。潰瘍出血と言えはまず胃を考えるという常識も変える必要はないようである。

なお、胃がん出血のための緊急手術例は、'60年代以来1例もない。

## VII. その他主要緊急開腹術の変遷

(表10) (1)の如く、各種原因による(外傷が8割を占める)腹腔内出血に対する緊急開腹例は少数ながら、'60年代以後人口増以上に増加している。'90年代に入っても増加は続いている。これも交通事故の増加の影響であろうか。

(表10) (2)の如く、限局性腹膜炎・腹腔内膿瘍に対する緊急開腹術(8割が術後合併症)は、過去30年間に減少傾向を示してきたが、'90年代に入ってから更に減少している。

(表10) その他主要緊急開腹術の変遷

	(1) 腹腔内出血		(2) 限局性 腹膜炎・膿瘍				(3) 胆石症・胆嚢炎				(4) 限局性 腸炎	
	年平均	比率	年平均	比率	全手術		緊急手術		緊急例 全例	年平均	比率	
					年平均	比率	年平均	比率				
1960年代	0.4例	1	3.0例	1	6.3例	1	0.8例	1	11%	0.4例	1	
'70	0.8	2.0	1.4	0.5	26.6	4.2	1.7	2.1	7	1.5	3.8	
'80	1.6	4.0	2.2	0.7	45.1	7.2	1.1	1.4	2	2.4	6.0	
IX'90~VIII'93	2.7	6.8	0.7	0.2	52.7	8.4	0.3	0.4	0.6	0	0	

(表10) (3)の如く、胆石症・胆嚢炎の手術は、'60年代には大腸がんとほぼ同数であったが、'70年代・'80年代の増加は大腸がんの2倍に達した。しかし、'90年代に入り更に増加したものの、(表5) (5)の如く大腸がんの増加の方が著明になっている。

胆石症・胆嚢炎に対する緊急手術は、'70年代に'60年代より倍増したが、'80年代には減少傾向を見せ、'90年代に入って激減した。これは、緊急事態に陥る前に発見されて手術されるようになったためであろうか。全例に対する緊急例の割合は、'60年代以来一貫して低下傾向を示している。

(表10) (4)の如く、限局性腸炎(65%は大腸憩室炎)による緊急手術は過去30年間増加傾向を示してきたが、'90年代に入ってから1例もない。

### VIII. まとめ

- (1) 緊急開腹術数は人口増を考慮すると'70年代以来減少傾向にあるが、これは急性虫垂炎(特に軽症)手術の激減のためであって、虫垂炎以外の救急手術は、'70年代以来、人口増以上の増加をつづけている。
- (2) '60年代から人口増以上の増加を示しつづけているのは癒着・悪性腫瘍、特に大腸がんによる腸閉塞、小腸および大腸の穿孔、腹腔内出血に対する救急手術である。
- (3) 穿孔性虫垂炎、胃・十二指腸潰瘍の穿孔あるいは出血、先天異常による腸閉塞に対する救急手術は過去30年間、人口増以上の増加を示していたが、'90年代に入り、'80年代より減少している。
- (4) 過去30年間は例数が少なかったのに'90年代に入って増加しているのは、腸捻転と胃がんの穿孔による救急手術である。
- (5) '60年代以来手術数がわずかに増えたが人口増以下に留まっているのは、外鼠径ヘルニアと大腿ヘルニアの嵌屯および腸重積に対する救急手術である。
- (6) 過去30年間一定の傾向を示さなかったが、'90年代に入り明らかに、減少しているのは、限局性腹膜炎・膿瘍と胆石症・胆嚢炎に対する救急手術である。限局性腸炎に対する救急手術は過去30年間に人口増以上の増加を示していたが、'90年代に入ってから1例もない。
- (7) 腹部救急手術の増加は、老令人口・がん・外傷の増加、そのための開腹術の増加が原因であり、減少は、診断法の進歩による早期発見と治療法の進歩に基づいているのではないかと思われる。

'90年代に入ってまだ3分の1しか経過していないので、最近の増減が一時的なものかどうか、さらに追求したい。

# 理事会報告

★ Information

2月定例理事会

平成6年2月8日

西多摩医師会館

## 【1】 報告事項

### (I) 地区長会報告

(真鍋理事)

役員及び医道審改選について

監事候補の推選は各地区1名とするとの申し合せを行った。

### (II) 各地区会よりの報告

(各地区理事)

(青梅) 2月23日地区会予定

(羽村) 2月26日 //

(福生) 2月28日 //

(瑞穂) 2月15日 //

(秋川) 2月21日 //

## 【2】 報告承認事項

### (I) 平成6年度小・中学校、保育園医推薦について

— 承認 — (高水理事)

青梅市立		
学校名	新学校医氏名	備考
第1小学校	平岡克彦 笹本隆夫	
第2小学校	小沢町江 荒巻武彦	
第3小学校	百瀬真一郎	
第4小学校	土田守一 鈴木穆	
第5小学校	藤野美美子	
第6小学校	藤野美美子	
第7小学校	堀田洋夫	
第8小学校		
第9小学校	遠山泰策	
第10小学校		
河辺小学校	福原清章 成田章	
新町小学校	野本正嗣 大堀洋一	

学校名	新学校医氏名	備考
霞台小学校	市原靖	
友田小学校	小沢昌彦	
今井小学校	唐橋善雄	
若草小学校	足立卓三	
藤橋小学校	百瀬真一郎	
吹上小学校	小林杏一	
第1中学校	森本晋	(変更)旧 皆川俊一
第2中学校	石田信彦 井上勇之介	
第3中学校	鈴木良亮	
西中学校	江本虎雄	
第6中学校	堀田洋夫	
第7中学校	中林敬一	
霞台中学校	吉野住雄	
吹上中学校	土田守一	
新町中学校	鈴木穆	
泉中学校	吉野住雄	

## 耳鼻科・眼科医

学校名	新学校医氏名	備考
第1小学校	(眼科) 後藤 伸 (耳鼻科) 竹内 靖信	
第2小学校	(眼科) 三田 哲夫	
第4小学校	(耳鼻科) 三枝 進	

## 五日市町立

学校名	新学校医氏名	備考
増戸小学校	桂木 真	
五日市小学校	鈴木 修	
戸倉小学校	黒田 雅信	
小宮小学校		
増戸中学校	栗原 琢磨	
五日市中学校	小机 敏昭	

## 奥多摩町立

学校名	新学校医氏名	備考
古里小学校	皆川 俊一	新
氷川小学校	川辺 隆道	
小河内小学校	川辺 昌道	新
古里中学校	皆川 俊一	新
氷川中学校	川辺 隆道	
小河内中学校	川辺 昌道	新

## 福生市立

学校名	新学校医氏名	備考
第一小学校	山口 太平	
第二小学校	中村 武	
第三小学校	渡辺 良友	
第四小学校	星野 稔	
第五小学校	林 実	
第六小学校	道又 正達	
第七小学校	木野村 幸彦	
第一中学校	西村 邦康	
第二中学校	山田 正哉	
第三中学校	森 和胤	

## 耳鼻科・眼科医

学校名	(耳鼻科) 学校医氏名	(眼科) 学校医氏名	備考
第一小学校	内山 大	馬詰良比古	
第二小学校		大久保敏男	新
第三小学校		〃	〃
第四小学校		馬詰良比古	
第五小学校		〃	
第六小学校		大久保敏男	新
第七小学校		馬詰良比古	
第一中学校		大久保敏男	新
第二中学校		〃	〃
第三中学校		馬詰良比古	

## 秋川市立

学校名	新学校医氏名	備考
東秋留小学校	大塚 涉	
多西小学校	瀬戸岡 俊一郎	
西秋留小学校	近藤 友好	
屋城小学校	奥野 仁	
南秋留小学校	植田 稔	
草花小学校	平林 信隆	
一の谷小学校	葉山 侃	
前田小学校	斎藤 信幸	
秋多中学校	田代 洋	(変更)旧 清水章三郎
東中学校	米山 秀雄	
西中学校	秋山 静夫	
御堂中学校	横田 博	

## 保育園医

秋川市		
保育園名	新園医氏名	備考
東秋留保育園	斎藤 信幸	
西秋留保育園	葉山 侃	
屋城保育園	奥野 仁	
神明保育園	瀬戸岡 俊一郎	

## 【3】 協議事項

- ◎ 休日夜間診療の参加医療機関をつのり、病院にも積極的に初療をお願いする。

## 2月定例理事会

平成6年2月22日

西多摩医師会館

## 【1】 報告事項

(1) 都医地区医師会長協議会及び三多摩ブロック医師会長協議会報告 (2.18) (松原会長)

## 1. 都医からの伝達事項

福井会長 挨拶

1. 日医役員改選で村瀬会長が立候補決意表明す。
2. 当面事業税存続する。現在所得税措置法適応者は34%程度である。

- ★ 3. 診療報酬改定 医科+5.2% 薬価-2.1% 実質+3.1% (日医要求6.6%)  
 甲乙解消、老人医療点数一般化、初221点 再61点、地域較差23区入院費+18点、  
 検査料-2点、診断料+5点、などが主な改正点となる。

- ★ (1) 平成5年度日医生涯教育制度を終了するに当たっての申告書提出について  
 申告率低下傾向〔昭62(64.2%)→平4(47.7%)〕あり、日医雑誌(平6.3.1)  
 生涯教育申告書により申告してほしい。  
 (学習時間50(参加証明10時間)平5.4.1~平6.3.31)  
 送付封筒の宛名ラベル貼付して  
 平6.4.15(金)迄に地区医師会提出のこと

- ★ (2) 平成6年度日医生涯教育制度の改正について  
 申告方法を時間制から単位制に変更する。(研修総合50単位 日医認定10単位)

日医都医地区医師会主催講演会	5単位
日医総会	5単位
各医学会・各種団体講習会	3単位
体験学習	5単位
各種業績 学会発表5(3) 特別講演10 学术论文5(3)単位	
自宅学習	1時間 1単位

- (3) 平成6年度東京都医療機能連携推進モデル事業(仮称)の実施について

国事業は559万円の予算で港区医師会委託にて実施中。

都モデル事業として248万円の予算で区部と多摩地区各1地区をモデル地区として行う。

- ★ (4) DPTにつき、予防接種専門家会議で検討が行われ個別12ヶ月を6ヶ月からに変更予定。  
 6・9児健診も内容変更される見通し。

(II) 各部報告

(各部長)

(広報) 80周年記念誌は2月末日までに発刊、3月レセプト日に配布予定。

(III) 各地区会よりの報告

(各地区理事)

(福生) 2月28日に役員選出予定

(羽村) 2月23日に役員選出予定

(五日市) 理事に小机会員、医道審議委員に桂木会員を選出した。

(秋川) エイズ勉強会を2月21日に行った。

【2】 報告承認事項

(I) 入会会員について

— 承認 — (真鍋理事)

(II) 平成6年度福生保健所「健康づくりフォローアップ」指導事業医師推薦について

( “ )

下記会員を推薦する。

肥満予防コース	(5月)	高 沢 勤
骨粗鬆症予防コース	(6月)	宮 川 栄 次
骨粗鬆症予防コース	(7月)	森 和 胤
高脂血症予防コース	(9月)	新 井 敏 彦
肥満予防コース	(10月)	山 口 太 平
糖尿病予防コース	(2月)	玉 木 一 弘
高脂血症予防コース	(3月)	西 村 邦 康

(III) 平成6年度小・中学校医推薦について

(高木理事)

下記会員を推薦する。

〈瑞穂町〉

小・中学校		
学 校 名	新学校医氏名	備 考
瑞穂第一小学校	小 林 康 光	
瑞穂第二小学校	丸 野 仁 久	
瑞穂第三小学校	栗 原 三 省	
瑞穂第四小学校	高 水 松 夫	
瑞穂第五小学校	新 井 敏 彦	新
瑞穂中学校	大 嶽 栄 二	
瑞穂第二中学校	波 田 野 洋 夫	

瑞穂町保育園		
保 育 園 名	新保育園医氏名	備 考
石畑保育園	高 水 松 夫	
むさしの保育園	波 田 野 洋 夫	

都立高校眼科医推薦について

学 校 名	新	旧	備考
多摩工業高校	大久保敏男	馬詰良比古	変 更

【3】 協議事項

(I) 会員名簿作成に伴う定款及び同施行規則印刷について

(真鍋理事)

次期会員名簿と定款及び施行規則は別々に印刷発行する。

文芸随筆その他諸事百般

## 雑記

# おもと会（明治会）と大正会

山田正哉

現在の医師会員の構成を見ると大多数の先生方は昭和生れで、明治、大正生れの先生方は数える程である。殊に、明治生れの先生に至っては数名となられ、大正生れの先生も20数名を数えるのみである。

私が勤務医を辞めて父の下に帰って医師会に入会した昭和35年頃は、医師会の理事は殆んど明治生れの先生方で数名の大正生れの先生方が居られるのに過ぎなかった。

当時の医師会は会長の下に、夫々エキスパートの先生方が理事として医師会の運営をなされていた。とかくの問題も無かった為か長上の下に和やかに過していた。また、一方三多摩地区医師会とは（北多摩、南多摩医師会は未だ分裂してない）非常に緊密であり、戦後の医療行政を一团となって遂行し、他方西多摩地域では西多摩地方事務所及び青梅、五日市保健所、各市町村長と密接な連絡を取り常に医師会が指導の立場に立って、各医療機関、青梅市立総合病院、福生病院、阿伎留病院、町宮奥多摩病院と共に地域医療を実施し、保健所の主たる青梅保健所運営協議会々長は西多摩医師会長が当り、すべてが医師会を中心として医療行政が実施されていた。

その頃の医師会理事であった上田登代一、菱山正治、笹本義太郎、後藤伸等の先生の発案で、百瀬政雄、藤野道常、山田正哉等が親睦と融和を目的とした大正生れの先生方の会を作ろうではないかと相談して出来たのが大正会である。

大正会の詳細な記録が見当たらないので、何時何処で会合したか判明しないのが残念だが、確か昭和39年3月頃に第1回会合を沢井の“楓荘”で開催したように思う。

大正会には栗原正吾、三井亀雄、大河原周、蓮沼孝、上田登代一、菱山正治、笹本義太郎、

後藤伸、藤野道常、百瀬政雄等多数の先生方が出席し美酒に酔い青春時代の思い出や遂には艶やっぱい話まで飛び出し、楽しい一時を過ごすことが出来て緊密度が更に深かまって、何時の間にか時の立つのも忘れる程であった。

然しながら、会員の先生方も診療が忙しくなって数回の会合で姿を消したことは残念でならない。

大正会を発足した当時亡き父が“お前等もなかなかいきな会を作ったものだよ”と云ったことを記憶している。

大正会に刺激されたのではあるまいが、昭和39年11月29日青梅“ふじや”に今は亡き山田正禮、大原芳雄、進藤利定、川内英雄、稲垣本治（元会長五日市開業耳鼻科）、香西盛長、小杉虎一（元京城帝大教授）の各先生方が出席して60才以上の明治生れの第1回の会合を開催した。この1年前に医師会の重鎮と目されていた山田正禮、稲垣本治、横田寿照（社団法人西多摩医師会初代会長）、進藤利定、大原芳雄、香西盛長の先生方が多摩の紅葉を愛で、山海の珍味を賞しながら診療を離れて一夜沢井の“楓荘”に会合したのが明治会の発会であると聞いている。

昭和43年9月11日に御岳“河鹿園”にて開催した明治会には、以上の先生の外に坂本保、小泉新策、石森賢一、田中浩哉、川辺晃、内野正作と高水武夫が出席している。

何時とはなしにこの明治会は満60才を過ぎた会員の会となり、その名前も“おもと会”となり回を重ねる毎に益々親睦の度を深めた様子は会報57号（昭和50年6月号16頁）に石川孝明先生が詳細に記載されている。

今考えると何れの会も社会情勢や戦争の中を生き抜いて来た人達である為めか、それとも医師達の生活の中に今以上に“ゆとり”が

あり、情緒を求めお互いの信頼感の中から自然的に発生して来た様に思われ、消失してしまったことに一抹の淋しさを感じる。

昭和生れの先生方も戦前生れより戦後生れの方が次第に多くなり、その育った環境や時代の背景の違いもあって、物に対する考え方、取らえ方も違う世代であれば当然考え方も意

見も違うと思うが如何であろうか。

どうだろうか、今後若い世代の先生方も我々や先輩達が自然発生的に作った様な会を、夫々の年代の有志の先生方で会を作って意見を開陳し、更に親密性を高めて戴ければ、更により良き医師会が作れると思うが一つ作られることを希望してやまない。

## 傘

川崎 健一郎

その男の大方の評判は、第一印象が良くないということである。すなわち、無愛想で取っ付きが悪い。喋り方もきつくて顔つきも怖い感じすら受ける。などなど数え上げたら切りがなく、わたしもその男の第一印象は良いとは思っていなかったが、ただ何となく波長が合うらしく、喧嘩をしたこともなく仲良く付き合っていて、一緒にゴルフをしたり酒を飲んだりしている間柄である。

或る晩、いつものように赤提灯で酒を酌み交わしていた時、「あれは7～8年前のことだったかナー。」と言ってポツリポツリとその男が喋り出したのは、次のような出来事であった。以下は彼の話である。

「ぼくが埼玉県のさるゴルフ場でプレーをしての帰り、季節は夏だった。ゴルフ場を出て間もなく、一天俄かにかきもりいわゆる集中豪雨というやつで、文字どおりバケツをひっくり返したような降りになった。ぼくはその日の夕食は済まして帰ると家内に言っているの、行きつけの青梅のレストランに行くことに初めから決めてあった。やがてそのレストランに着いたが、相変わらずのドンシャ降りで、ドアを開けることも出来ず、サテ、どうしようかナー、と思いをながらフト窓の外を見ると、そのレストランのホステスが開いた傘を持って軒下に立っているではないか。

ぼくは窓をチョップリ開けて、『どうしたの』と聞いたところ、『さっきあなたが駐車場へ入るのが見えたので、この雨では大変だろうと思ってお待ちしていたのですヨ。』と

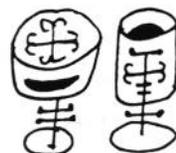
の返事である。ぼくは感激したヨ。そうだろう。今までそんなことされたことないもんネー。たびたび行っているから顔馴染みかも知れないけど、ただそれだけのことだもんネー。ぼくは、彼女の気配りの良さ、心のやさしさにジーンと来たヨ。」ここまで喋って彼はグイッと酒を飲み乾した。彼の話にはわたしも感動した。

「いい話だネー。人情の薄れた近頃にしては珍しいネー。」わたしもそう言って盃を乾したことだった。

この話には後日譚がある。それから数年後彼が或るフランス料理店へ行ったところ、偶然にもその時の彼女にバッタリ出逢ったのである。彼女は「あら!!」と言い、彼も「あれ!!」ここで働いていたのか。もう結婚しているんだろ。」と言うと、彼女は「まだ独身です。誰かいい人居たら世話して下さいネ。」と言ったそうである。

それから後のことはわたしはまだ聞いていない。

それはともかくとして、第一印象が良くないと評判のその男に、ほのほのとしたこんな話があったなんて、ほほえましいと思いませんか。わたしとその男とが波長が合ったみたいに、彼女もその男と波長が合っていたのでしようネ。



## 新人紹介

# 新規加入に当って

国際電気株式会社 羽村工場

診療所長(前福生病院長) 大久保 憲 二

私は、長い間、福生病院に勤めておりましたが、昨年秋、定年退職して後、縁があって国際電気に勤務することになりました。

先日の西多摩医師会報には、新規開業と書いてありましたが、私の身分は会社の勤務医です。国際電気の社員及び家族に対して、簡単な診療を行っております。従来、この診療

所は西多摩医師会とは無縁の状態でしたが、私の診療の際、近隣の諸先生にお願いすることも多く、西多摩医師会に加入することは、私にとっても、社員にとっても、有益なものと考えました。福生病院勤務の頃からの知合いの諸先生方が多いので、気楽に毎日をごしております。

## お 知 ら せ

4 月 ( 3 月 診 療 分 ) の  
保 険 請 求 書 類 提 出 日  
**4 月 7 日 ( 木 )**  
 — 正午迄です。 —

◎ 4 月は、社保支払基金及び国保連合会が週休のため1日繰上りますのでお間違いのないようご留意願います。

## 法 律 相 談

西多摩医師会顧問弁護士 鈴木禧八先生による法律相談を毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽にご相談下さい。

- ◎ 相 談 日    3月は9日(水)  
                  4月は13日(水)の予定です。
- ◎ 場    所    西多摩医師会館和室
- ◎ 内    容    医療、土地、金銭貸借、親族、相続問題等民事、刑事に関するどのようなものでも結構です。
- ◎ 相 談 料    無 料 (但し相談を超える場合は別途)
- ◎ 申 込 方 法    事前に医師会事務局迄お申込み願います。

(注) 先生の都合で相談日を変更することもあります。

## 表紙のことば

## 『油屋旅館』（五日市町）

JR五日市駅を降りて右手、檜原村に向かう街道を上り加減に歩くと、古い町並みが周囲の風景と美しく調和して、往来する人の目を楽しませていたのも、つい先頃のように思える。それが五日市の町であった。

大正九年、それまで、油を絞って売っていた「油屋」の店をやめて、その敷地に、沼田新次郎、たかさん夫婦が、立派な旅館を建て、今の檜原村に往復する村人や商人の便利の為に、営業を始めた。

以来、街道の賑わいも増して、利用する人も多くなった。建物の美しさが、活動屋さんの目にとまり、映画に登場したこともあるという。

昭和59年、五日市街道改修工事によって、昔の情緒ある風景と共に、この写真の建物、「油屋旅館」も消えて、現在の新旅館に改築された。

その旅館は、どこの町とも区別しえない、今の街道風景の中に、ひっそりと溶け込んでいる。

安富一夫

## あとがき

リレハンメル五輪観戦でやや寝不足気味の毎日が続いています。精神と肉体の極限の苦痛に耐える姿に感情移入をしつつ様々思いを巡らすことは、少なからず精神修養になったかもしれません。長年の訓練に耐えメダルの重圧を制するに至る境地や体験とはどのようなものなのか。人間の弱さの谷に張られた一本の綱を必死に渡り切るような危うさなのか、それとももっと挑戦的で喜びの深い体験のかなどと色々想像してみたのですが、あまり悲壮な分析は止めプラス思考で選手たちの努力に素直に学ぶことにしました。医師会活動は脈々と受け継がれる終わりの無い駅伝のようなものでしょうから、願わくばエンドルフィンを得て息切れ無く、楽しく走ることが出来ればと思います。さて現編集委員会も2年の任期を目前にし、本号で21号目の編集を終え残すところあとわずかとなりました。内容につきましてはいろいろご批判もご意見もあるものと存じますが、息切れせぬようまず目前のゴールをめざしががんばります。

玉木一弘



社団法人 西多摩医師会

平成6年3月1日発行

会長 松原貞一 〒198 東京都青梅市西分3-103 TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会 明田川修生

天野了一 石井好明 片平潤一 小机敏昭 込田茂夫

瀬戸岡俊一郎 高水松夫 玉木一弘 山川淳二

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

# 健康の輝きをひろげる。



株式会社 **ビー・エム・エル**

本社・〒166 東京都杉並区藤原1-34-5 TEL.03-3316-0111(代)  
総合研究所・〒350 埼玉県川越市約町1361-1 TEL.0492-32-0111(代)

RETAIL BANK  
あさひ銀行

あなたの街の  
あさひです。



## あさひ銀行

東青梅支店	TEL.0428-22-2121(代) 〒198	青梅市東青梅2-17-4
奥多摩 特別出張所	TEL.0428-83-2515(代) 〒198-02	西多摩郡奥多摩町氷川1421
青梅支店	TEL.0428-22-1101(代) 〒198	青梅市青梅295
河辺支店	TEL.0428-24-2401(代) 〒198	青梅市河辺町10-2-9
福生支店	TEL.0425-51-1021(代) 〒197	福生市福生1048
村山支店	TEL.0425-61-1211(代) 〒208	武蔵村山市中藤4234
秋川支店	TEL.0425-58-2611(代) 〒197	秋川市下代継111-5
羽村支店	TEL.0425-79-0881(代) 〒205	羽村市五ノ神4-13-10
五日市支店	TEL.0425-96-1311(代) 〒190-01	西多摩郡五日市町五日市840-1

## 優れたノウハウで西多摩医師会会員の ニーズにお応えいたします。

経理事務に関することなら何でもお気軽にご相談下さい。

- 一人医師医療法人の設立・先生方の関連事業の会社設立
- 新規開業時の銀行提出資料の作成
- 毎月の記帳・給与計算・決算業務の代行・指導

(この業務はNHK教育テレビで紹介された21世紀の経理システム  
「キャッシュ・レーダー」で行います。)

- 賃貸・譲渡や経営再建に関する相談
- 利益計画の作成、事業承継や財産管理等の資産保全に関する相談

なお、税務相談、申告書の作成等の税務については、日経メディカル「メディクイズ」  
を連載執筆中の「小山公認会計士事務所」がサポートいたします。

### 有限会社 経理処理サービス

本社 東京都田無市本町5-11-14

TEL. 0424(64)8390

FAX. 0424(64)2218



うれしい  
明日が  
見えてくる。

夢にあふれた素敵な星の王子様トフィーローと犬のルールーが、たましん総合口座のキャラクターとして人気上昇中。総合口座通帳はじめ、キャッシュカード、2wayカード、定期預金100通帳などで大活躍です。トフィーローと一緒に夢のある暮らしをはじめましょう。

**TOFFEROO**  
© TOMIYAMA COMPANY CO., LTD.  
Adrift in a sea of stars,  
I could float forever...  
Comets tickling my toes...

各県のマイバンク  
**たましん**  
多摩中央信用金庫

自然のめぐみを最先端の技術で活かす——ツムラ漢方製剤エキス顆粒(医療用)128品目+3品目



ツムラは、ツムラ漢方製剤エキス顆粒(医療用)128品目+3品目により、高齢化社会の深まりつつある現実の治療に貢献しつつ、漢方製剤の科学的な実証を通じて、21世紀に至る長寿社会の治療手段としての役割をはたしていきたいと願っております。

 株式会社 **ツムラ**  
東京都千代田区二番町12-7 102

最新のテクノロジーが計測します  
そして、人の眼と心が記録します



臨床検査のパイオニア  
**保健科学研究所**

本社 千240 横浜市保土ヶ谷区神戸町106 TEL/045-333-1661(大代表)

仙台支社 千983 仙台市富城野区扇町1-3-5 TEL/022-238-9345(大代表)